

Title	青年期の樹木画に関する研究(5)
Author(s)	山田, 麻有美
Citation	聖学院大学論叢, 13(2): 205-224
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=499
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

青年期の樹木画に関する研究 (5)

山 田 麻有美

A Study of the Baumtest Used with Adolescents (Part 5)

Mayumi YAMADA

The purpose of this study is to verify the validity of the interpretation of the Baumtest, using full descriptions of interpretation and the interpretations of the MMPI. Assessment is made using the Baumtest and the MMPI-MINI. After detailed analysis, tree drawings by four university students who graduated last year were selected and analyzed in detail. Each interpretation of the four tree drawings was compared with the interpretation of the MMPI-MINI. The results of this study were as follows: (a) There were five common points in the interpretations of the Baumtest and the MMPI-MINI: relations with other people, usual attitudes to daily occurrence, conditions of adjustment, self-image, and uniqueness. (b) The Baumtest was a very useful method for understanding the mind of adolescents.

I. 問題と目的

筆者は、Baumtest が学生理解の一方法として利用されるようになることを目的に、一連の研究を行ってきた。本報告では、大きな支障なく日常生活を送っている青年の樹木画を検討し、その学生生活の特徴をつき合わせるにより、描かれた樹木画に表される内的側面について考察する。

II. 方法と結果

① 樹木画の抽出

- (i) S 大学 1999 年度心理学科目の受講生 (M12, F18) を対象に Baumtest を実施し、それぞれ

Key words; Baumtest, Validity, Adolescents, MMPI

青年期の樹木画に関する研究 (5)

れの樹木画について解釈を行った。解釈の観点は、次の4点である。

- (1) 樹木画から解釈者が受ける印象
 - (2) 樹木画の形態
 - (3) 運筆
 - (4) 樹木の位置
- (ii) これらの樹木画の中から、卒業年次生 (M2, F2) が描いた樹木画4枚を選び出した。

② 樹木画の解釈

(i) 樹木画 a

[印象] : 大雑把・こだわり・堂々とした態度・乱雑・バランスが良い・頭でっかち・自己主張あり, 強いエネルギー, にぎやか, 勢いがある・闊達・細かい配慮に欠ける

[形態]

- ・全般 : 雲形系輪郭の大きな樹冠部, 太い幹, 閉鎖した多くの枝, 一本の葉脈をもった葉, 12個の大きい実と3つ1組の小さな実16組の, 6つの部分が描かれている。
- ・樹冠部 : 左右と上部は, 紙面からはみ出している。樹冠線に沿って葉が1枚ずつ描かれている。樹冠内は, 枝と実と葉で中央部分はぎっしりと満たされている。

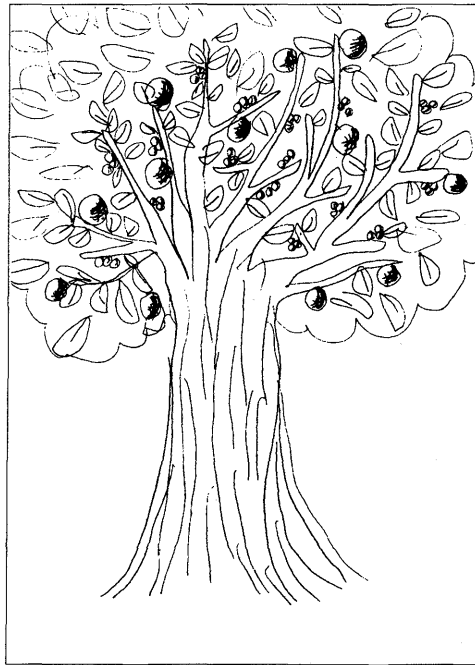


図1 樹木画(a)

青年期の樹木画に関する研究 (5)

- ・ 幹 : 上部は、7本の枝へとつながっている。下部は、左右に広がって開放されたままであり、根の描写へとはつながっていない。幹の輪郭線は、樹皮の線がいくつも重なっていて、連続していない。幹の表面には、多くの不連続の縦線で樹皮が描かれており、この樹木画の特徴の一つとなっている。
- ・ 枝 : 幹から7本が分かれ、そのうちの5本はさらに枝分かれしていて、すべて、先端が閉じられている。枝の太さは一定ではなく、先端が丸くやや太くなっているものも少なくない。
- ・ 葉 : 1枚ずつ描かれている。外側の葉は比較的大きく描かれている。紙面右部分に描かれている枝は、枝分かれの回数が左に較べてやや多く、複雑である。
- ・ 実 : 大小すべての実に、丸みを表現するためと思われる影が描かれている。大きい実の影は丁寧に濃く描かれていて、この樹木画の特徴の一つとなっている。
- ・ 根 : 描かれていない
- ・ 地 面 : 地面を予想させるようなものは描かれていない。
- ・ 陰 影 : 実にのみ、丁寧に描かれている。

[運筆]

- ・ 描画線の特徴 : この樹木画は、筆圧のやや高い、伸びやかで、くっきりした線が特徴的である。線を重ねて描いている部分はほとんどない。一つ一つの線は、その線を描きはじめるときすでにその到達点がイメージされているかのように描かれていて、自由なびのびした動きが感じられる。葉や実の描き方はほぼ一定で、この樹木画の安定した感じを作り出している。
- ・ 筆 圧 : 筆圧は、中程度からやや高い程度である。
- ・ 長 さ : 幹の描画線は、長さが8~10cmの緩やかな曲線である。枝は、一筆書きのような長いヘアピンカーブを持つ曲線で一気に描かれている。
- ・ 太 さ : 幹や枝、実の線はやや太い。雲形の樹冠部を表す線や葉の描画線は中程度の太さである。
- ・ 初めと終わり : 初めと終わりを明確に意識して描いている部分と、あまり意識せず、筆まかせに描いた部分とが混在している。
- ・ 振 え : 描画線の振えはない。
- ・ 勢 い : 運筆の勢いの良さが、ほとんどの描画線に見られる。

[空間]

描かれた樹木に空間的なゆがみは認められない。樹冠部は、4分割ではほぼ左右の上部に位置し、12分割では1, 2a, 2b, 3と4, 5a, 5b, 6の上部に位置する。幹は、4分割では下部の分割線の左右に位置し、12分割では、5a, 5bと、8a, 8bの上部に位置する。

[全般的解釈]

青年期の樹木画に関する研究（5）

この樹木画は、堂々として勢いがあり、自由闊達で伸びやかに描かれており、この描画者の心の自由さが投映されていると考えられる。実や葉の描き方に表われている「こだわりや自己主張」、あるいは幹や葉の一部の描き方に表れている「乱雑さや細かい配慮に欠ける点」などは、この描画者の持つ強いエネルギーやバランス感覚の良さによって補われ、「にぎやかで闊達」という長所になっていると思われる。

樹木画 a の描画者は、自我同一性の獲得という青年期の発達課題については、ほぼ解決されているであろうと推測される。情緒的には安定しており、対人関係はおおむね良好であろう。また、朗らかで、自分の状況を楽しむことができ、落ち着いた日常生活を送っていると考えられる。

(ii) 樹木画 b

[印象]：自信のなさ、理屈っぽさ、自己満足、矛盾をはらんでいる、取り繕い、鈍重な感じ、落ち着いて見える、見かけの弱々しさ、頑固さ、いいかげん、てこでも動かない、

[形態]

- ・ 全般：底辺が長く、上から押しつぶされたような印象を与える鈍角三角形の樹冠部を、脚を広げたような太く短い幹が支えている樹木画である。
- ・ 樹冠部：底辺が約 28cm、高さが約 15cm の樹冠部は、紙面のおよそ 1 / 2 の面積を占める。不連続な線を重ねて樹冠部を区切っている。この区切りの不連続な線は、樹冠の下部により顕著に見られる。樹冠全体には、斜線を引かれている。細長い楕円状の葉ないし実が、樹冠の上部と底部に見られる。
- ・ 幹：上端が約 8cm で下端が約 18cm と、根元の太さが上部の 2 倍以上になっている。高さは約 6cm で、幹の幅に較べて、短い。幹内には何も描かれていない。

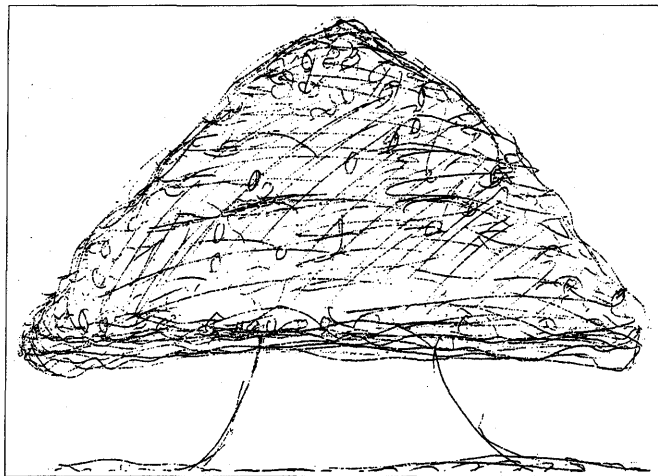


図 2 樹木画(b)

- ・枝 : 描かれていない。
- ・葉 : 樹冠上部と、左端から底部、および右端に楕円状に描かれているものを、葉と見ることができる。樹冠中央左に描かれている楕円状のものも、葉を描いていると見ることもできよう。
- ・実 : 上述のように、樹冠内の楕円状のものを葉と見ると、実は描かれていないことになる。しかし、そのうちのいくつかは、実として描かれた可能性を否定することはできないだろう。
- ・根 : 幹が地面線で区切られており、根は描かれていない。
- ・地面 : 紙面下端から 0.7 ~ 1.2cm の位置に、長さ約 27cm で、やや右寄りに、6 ~ 7 本の不連続な直線と 1 本のらせん状の線によって描かれている。
- ・陰影 : 樹冠を不連続な斜線が被っていて、その線の方向や密度から、樹冠を立体的に描こうとしていたと考えられる。

[運筆]

- ・描画線の特徴全体に筆圧は弱く、細くて長い線が連なっている。一つの部分を表現するのに単線で表現している部分のごくわずかしかない。とくに、葉ないし実の描画線は薄く、表現しているものを特定することが困難なほどの弱い線で描かれている部分がある。強調したい線は細い線を何度も重ねて描くことによって表現しようとしているようである。
- ・筆圧 : 筆圧は、非常に弱い。
- ・長さ : 筆圧が非常に弱く、細くて薄い線であるため、一本の線の長さを測定することが困難な線が多い。しかし、鉛筆を紙面から離さずに樹冠の底辺部分を行き来している線が認められる。
- ・太さ : 線は全般的に細い。
- ・初めと終わり : 線のはじまりと終わりを特定することが困難な線が多く、ほとんどどこからともなくはじまり、どこかに消え入ってしまう。
- ・振え : 線の振えは認められない。
- ・勢い : 軽くすばやいたッチである。

[空間]

描かれた樹木は、紙面の中心線を対称線とした左右対称形を成していることがわかる。12分割では、樹冠部が紙面全体の約 $4/12$ を占め、幹が $2/12$ を占めている。幹は 8a, 8b に位置する。

[全般的解釈]

この樹木画は、左右対称の安定した形態にもかかわらず、安定感が感じられない樹木画である。表面を取り繕ってはいても、対外的には自信がないのに、自分には満足しているというような、内的な矛盾の存在を予想させる。描かれた樹木には、見かけの弱々しさとは対称的に、頑固さや理屈っ

ぼさ、鈍重さが表されている。この描画者は、表面的には良く適応している、日常的に、対人的な問題を引き起こすことは少ないであろう。また、自分の内面的な課題に対しては、あまり注意を払わないか、あるいは、意図的に避けているのかもしれない。更には、表面的な適応の良さを、本来の自分の状態であるとして、満足しているのかもしれないが、自信のなさや自分の好い加減さなどについては、ある程度気付いてはいると思われる。また、ものごとに対する固執は、強くはなさそうである。

(iii) 樹木画 c (樹木画の解釈のみ)

[印象]

自己顕示的、自我肥大、バランスが悪い、不統一、ノゾキ趣味、こだわり、知性的でない、自己中心的、場当たりの、自我防衛的

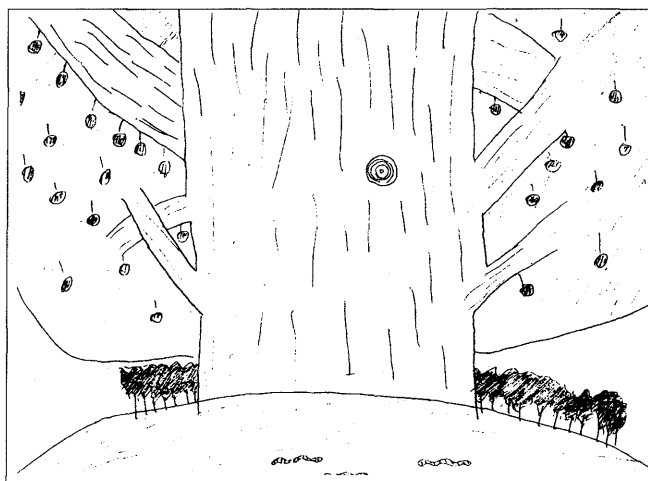


図3 樹木画(c)

[形態]

- ・全般：紙面の上部3/4を占める樹冠部の中央を貫いて描かれている幅約13cmの幹とその幹の中央やや右寄りに描かれた切り落とされた枝の跡が印象的な樹木画である。
- ・樹冠部：幹により左右に分断されている樹冠部には、先端が開いた枝が3本ずつ伸びている。左右の樹冠部の枝と実を除いた部分は、斜線で塗りつぶされている。左の樹冠部は、枝からぶら下がっている実が8個と単独の実8個の合計16個の実が描かれている。右の樹冠部には、枝からぶら下がっている実3個と単独の実7個の合計10個の実が描かれている。
- ・幹：幹は太さが約13cm、高さが約18cmで、紙面の幅の約44%にあたり、この木が巨大な樹であることを示している。幹はほぼ同じ太さで、両端が開いており、一面に3~5cm

青年期の樹木画に関する研究 (5)

ほどの長さの縦線で樹皮が描かれている。中央右寄りの部分に切り落とされた枝のあとが年輪状の同心円で描かれている。

- ・枝 : 左側に太さ約1 cm のものが2本と3.5cm のものが一本、右側には、1cm, 2cm 3 cm のものがそれぞれ1本ずつ描かれている。枝はすべて先端が開いており、幹から出た部分と先端が同じ太さである。左側3本の真ん中の1本と、右側3本のうち上の1本は、それぞれ下向きの枝である。
- ・葉 : 葉は描かれていない。
- ・実 : 26個の実、一つずつくしに刺した団子のような、塗りつぶされた図式的な実で、乱雑に描かれている。実の大きさは、幹や枝の太さに比べ小さく、不釣合いである。
- ・根 : 根は描かれていない。
- ・地面 : 地面線は、紙面下左から0.7cm のところから、右下から0.8cm のところを結び弧を描いている。地面線からは斜線で塗られている。
- ・陰影 : 樹冠部と実、地面は塗られているが、陰影をつけるためというよりはむしろ、彩色といたほうが良い描き方である。
- ・その他 : 付属物として、地面線の上部に、左に7本と右に11本の本が密集しているように描かれている。地面の上ないし中に、ミミズのようなものが3つ描かれている。

[運筆]

- ・描画線の特徴 : 幹や地面線などの外界との境界を示す線は、筆圧の高い単線で描かれているのに対して、その線によって区切られた内部の描画線は、比較的筆圧も低く、不連続であったり、線が重ねてあったりして、落ち着きがない。また、部分によって鉛筆の使い方が異なっているようである。いったん描きおえた線に付け足して描いている線がある。
- ・筆圧 : 筆圧は一定せず、幹の右側下の線に見られるような鉛筆を立てたかなり高い筆圧と対照的に、幹左側上部の線は筆圧も弱く細い。樹冠内と地面内を塗っている線の筆圧は弱い。樹皮を表す線の筆圧は、一定していない。
- ・長さ : 一見、筆圧の高い長い単線が目につくが、全体を描き出している線は、短めで、不連続なものが多い。幹の樹皮を表す縦線は約1 ~ 6 cm、幹の樹皮を表す線は約0.5~ 5 cm だと、一定していない。
- ・太さ : 筆圧が高く太い線が幹の右側に見られるほかは、全般的に細い線が多い。
- ・初めと終わり : 筆圧の高い線の初めと終わりは、明瞭で、ためらいが見られない。筆圧の弱い細い線は、鉛筆を打ち付けるようなタッチで描きはじめられ、消え入るように終わっている。
- ・振え : 波打つ線が、枝や幹の線に散見される。
- ・勢い : 樹冠線や幹の下部、地面線に見られる思いきりの良い線の動きは、幹の上部や枝にはあ

まり見られない。

[空間]

樹木と地面、付属物が描かれていない空白部分は、紙面全体の約 1/12 である。樹木の紙面に占める割合は、約 3/4、地面のそれが約 1/12、付属物（遠景の林）のそれが約 1/12 となっている。幹の中央部分に描かれた切り落とされた枝の痕の中心は、4 分割では右上、12 分割では 5 a に位置する。

[全般的解釈]

紙面中央に描かれた太い幹と、そこの中に描かれている枝の切断痕は、この樹木画を特徴付けるものであり、この描画者の、自己中心的で自己顕示的な欲求を窺がわせるものである。しかし、その欲求は満たされず、反って孤立感を深めているように思われる。この樹の背後に、遠景に密集しているように描かれている多くの樹が、描画者の孤立感の強さを際立たせている。図式的に描かれた多くの実や、先端が開かれたままの枝は、幹と傷跡とは何の連関を持たないお飾りにすぎないように見える。この描画者の外界とのかかわり方は、対立的あるいは道具的である可能性がある。心理的にはやや追い詰められた感じを持っていて、外界に呑みこまれそうに感じている自分を、外界と対峙させ、押し出すことによってかろうじて自分を保っている、という状態ではないかと思われる。更に、自分自身に対しても場当たりのにならざるを得ないきわどさの中にいるのではないだろうか。幹の傷跡は、内側から外界を覗いている目のようにも見える。この描画者は、外界に対して警戒感や不信感を持っているのかもしれない。日常生活は、平穩というわけにはいかない状態ではないかと思われる。

(iv) 樹木画 d

[印象]

神経質、表面的、貧弱、抑圧的、さびしい、安定している、空虚、内面を見せまいとする意志、

[形態]

- ・ 全 般：縦 4.5cm、横 6.5cm の小さな画である。描かれたものが、木と認められるために最低必要な部分—すなわち、幹と枝と樹冠と地面線の 4 つの部分—のみから成り立っている。木としては幹に相応した樹冠を持ち、安定した形である。
- ・ 樹冠部：波線で描かれている樹冠は、やや右側が大きい。内部は空白である。
- ・ 幹：根元が 1.8cm、上部が 0.8cm、高さが 2 cm の、安定した形である。内部は空白で、根元が開かれていて、空疎な感じを与える。
- ・ 枝：幹からつながって左右と中央の 3 本にわかれた枝である。右側の枝が鋭角に伸びている。左側の枝は、勢いが殺がれた感じである。
- ・ 葉：葉は描かれていない。

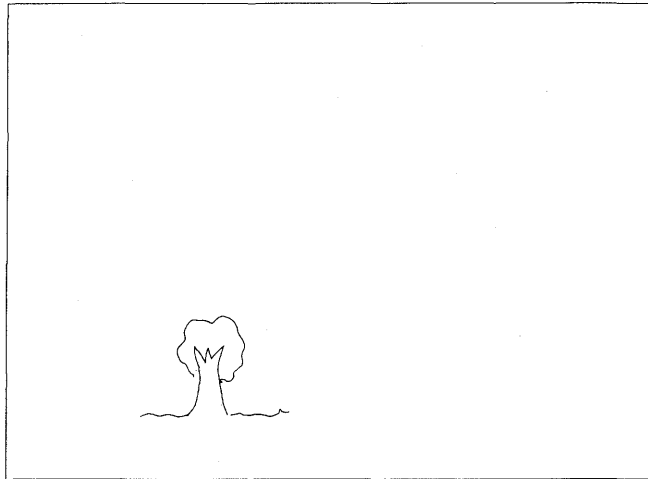


図4 樹木画(d)

- ・実 : 実 は描かれていない。
- ・根 : 根 は描かれていない。
- ・地面 : 地面線は、幹の左右に伸びている。
- ・陰影 : 陰影は付けられていない。
- ・その他 : 特筆すべきものは描かれていない。

[運筆]

- ・描画線の特徴 : 鉛筆を立てて描いた少ない線を効果的に用いた表現である。幹は直線に近い曲線で描かれており、それにつながる枝も同様である。それに対して、幹の両側の地面線と樹冠を表す線は、不規則に波打っていて、それぞれの部分の違いを表現している。
- ・筆圧 : 筆圧はやや強い。全体的には、筆圧の変化はほとんどないと見られる。
- ・長さ : 実際の線の長さは短いですが、細切れの線ではなく、幹、樹冠、地面線などの部分を一本ずつの線で描ききっている。
- ・太さ : 線の太さは、ほぼ一定である。
- ・初めと終わり : 線の初めと終わりは唐突である。
- ・振え : 樹冠が幹と接する右側と、地面線の右端に、鉛筆が引っかかったような痕が見られる。
- ・勢い : 一筆書きのように描かれてはいるが、一つ一つの線に、勢いはなく、単調な筆の運びである。

[空間]

樹木は、4分割では左下(退行領域)に、また12分割では8aおよび5aに、それぞれ位置する。地面線を含めた画全体は、4分割では左下に、また12分割では、8a、5aおよび7に位置する。

[全般的解釈]

4分割の退行領域に描かれたこの樹木画は、小さくひっそりと遠慮がちに見えるが、詳細に見ると、直線的な描画線と波打つ線を使い分けることによって巧みに表現されている。開かれている幹の下、地面の下からわきあがるであろうエネルギーが、閉じられた枝によって押さえられ、更に樹冠を表す線によって閉じ込められているかのようである。この描画者は、神経質で気難しく見えるだろう。寂しさを抑圧し、内面を人に見せまいとしているが、表現の単調さにより反って、この描画者が内面に抱える空虚さを際立たせているように思われる。対人的には、特定の人を除いて、接触を避ける傾向にある、と思われる。また、日常的には、非活動的で、行動範囲は狭いであろう。知的な問題はないと思われる。ものごとに対する態度が自己完結的で、人を寄せ付けない雰囲気を持っているかもしれない。描画者にとって、社会生活は困難を伴っているだろうと推測される。

③ 描画者の属性

(i) 樹木画 a の描画者

[描いた樹木画に対する描画者自身のコメント]

大きな木で枝もたくさん生えている。実は大きいのが小さいのがたくさんあって、いまにもおこちてきそう。葉は青々とし、実は赤々となっている。この木を見ていると、元気になれそう。

[MMPI - MINI の結果] (「表 1 MMPI-MINI 標準得点」参照)

・ MMPI - MINI の受検態度

MMPI-MINI 自動診断システムの解釈によると、被検者は、この検査に対して『理性的且つ適切な回答』をしていると考えられ、検査結果が被検者の内面を表している可能性が高い、と判断された。

自由でオープンな自己像を持ちストレスからは自由で、適応は良好であり、社会的制約を受け入れ社会的に順応しようとしている世慣れた人、と解釈されている。

自分の心や思いを他人に打ち明ける傾向と秘密にしておく傾向のバランスがとれている、と考えられる。

・ MMPI-MINI に見られる主要な精神症状

日常的には、状況に応じた適切な行動をとっているが、自己顕示欲求が強く、抑制にかける点があって、身体化による防衛を行なっているかもしれない、とされる。

・ MMPI-MINI に見られる対人関係の特徴

社交的で、抜け目がなく、内向的な面と外向的な面の均衡がとれており、女性役割に関する反応も平均的である。

・ MMPI-MINI に見られる上記以外の人格と行動の特徴

青年期の樹木画に関する研究（5）

表1 MMPI 尺度別標準得点

		標準得点 (a)	標準得点 (b)	標準得点 (d)	
妥当性尺度	? 不応答	47	47	47	
	虚言	40	70	37	
	頻度	46	40	61	
	修正	46	65	40	
臨床尺度	心気症	58	38	37	
	抑うつ	39	56	35	
	転換ヒステリー	49	49	50	
	精神病質的逸脱	44	47	60	
	男性性・女性性	40	33	55	
	妄想症	52	45	42	
	精神衰弱	58	46	48	
	精神分裂病	57	38	51	
	軽躁病	58	27	46	
	社会的内向	46	51	48	
	内容尺度	抑うつ・無力・心労	46	39	54
		交際嫌い	49	62	69
		猜疑心・不信感・敵意	51	35	66
妄想型精神分裂病		49	46	52	
身体症状		62	43	32	
社会的内向		54	48	42	
緊張・心労		55	39	45	
女性的興味		56	65	37	
分裂感情障害		52	36	59	
特殊尺度		建て前	42	49	59
	ストレス症状	59	43	43	
	非行	52	49	37	

全般的な活動レベルやエネルギーは普通の範囲にあると考えられる。

態度は柔軟で、猜疑心、敵意、怒りの表出、競争心などの強さは普通程度であり、感受性が強すぎるといったことはない。

人や物事に対する関心は、程よくある。

・被検者の MMPI-MINI 診断印象

目だったストレス症状は現れておらず、生活や仕事を適切に組織化する能力があり、現在は、ストレスを受けていない気楽な状態であるか、あるいは、ストレス耐性の強いことがうかがわれる。基本的には正常であるという印象を与える。

(ii) 樹木画bの描画者

[描いた樹木画に対する描画者自身のコメント]

これは、「この木なんの木、きになる木になる木ー」の木のイメージです。とにかく大きくて葉のたくさんついている木です。実といわれると、あまり浮かばないのですが…。食べるものには困らない木だといいな…と思うのです。春夏秋冬、四季折々の実がなれば便利ですね。おいしくて、秋がこないのがいいです。

[MMPI-MINIの結果] (「表1 MMPI-MINI 標準得点」参照)

・MMPI - MINI の受検態度

MMPI-MINI 自動診断システムの解釈によると、被検者は、この検査に対して『理性的で適切な回答』をしており、『意図的に良い印象を作ろうとする意図が見られる』とされるが、検査結果が被検者の内面を表している可能性が高い、と判断された。

適応はほぼ良好、と思われるが、洞察力・理解力が不足していて、ストレスが加わると感情的になりやすかったり、欲求不満耐性が低く、自己統制の程度が極端だったりすることがある、と判断された。厳格な宗教的・道徳的訓練を受けてきたと思われる節があり、用心深く、防衛的抑制的で否認の防衛機制が見られる、とされる。

・MMPI-MINIに見られる主要な精神症状

何らかの状況的な原因で疲れているか抑うつ状態になっているため、エネルギーや活動のレベルが極端に低く、全般的に無関心、無気力で、活動への意欲がなかなか湧いて来ないような精神状態と考えられる。その反面、現実的、慣習的で、権威に従順な面があり、自分は自主的で有能であるという自己理解を持っているであろうと予想されてもいる。

・MMPI-MINIに見られる対人関係の特徴

対人関係を不快に思うことがあったり、大勢の人が苦手だったりなど、他人との交際を嫌う傾向が見られる。他人からは、のんきでやや受動的だと思われるが、実際には、用心深く、防衛的、抑圧的であるため、他人を批判したり腹を立てたりなどをせず、人目を惹くようなことを避けているだけである。伝統的な女性的活動に興味を持ち、自分の事を話題にしたがらず、男性には従順であることを是とする面が見られ、社会的には孤立することもありうるだろう、と考えられている。

・MMPI-MINIに見られる上記以外的人格と行動の特徴

興味の範囲が狭く、旧来のしきたりには同調的、社会的な統制には適当に従う

青年期の樹木画に関する研究（5）

他人に対して辛辣で、抑制にかける点があるので、他人から敵意を抱かれる場合がある社会的に孤立しやすい

日常的には、仕事や生活を円滑に運ぶことはできているであろう。

・被検者の MMPI-MINI 診断印象

現在、目だったストレス症状は現れていないが、これは、ストレスを受けていない状態に居るか、あるいは、ストレス耐性が強いかのどちらかであろう。しかし、理解力・洞察力が不足しており、防衛的、抑制的で、抑圧や否認などの防衛機制を使っていることから、この被検者は、精神的に問題を抱えていて、完全に正常であるとは言えない、と判断されている。

(iii) 樹木画 d の描画者

[描いた樹木画に対する描画者自身のコメント]

木は、おそらく「くり」の木だと思う。‘実のなる木’ といえ、[栗の木] であると思うから、植えてある場所は、おそらく群馬の桐生市。たぶん誰かの家の庭のくりの木だと思う。絵が下手で、そこまで表現しきれないのが残念…。

[MMPI-MINI の結果] 「表 1 MMPI-MINI 標準得点」参照

・MMPI-MINI に見られる被検者の受検態度

被検者は質問項目に率直に答えており、検査結果は被検者の現在の精神状態を反映していると考えられる。社会的な制約を受け入れる傾向はあるが、普通の人より多くの異常な経験を持っていて、独立思考が強く、実生活では、拒否的で習慣に従わないと推測される。

また、状況的なストレスを抱えているかもしれない。

・MMPI-MINI に見られる主な精神症状

エネルギーや活動性のレベルは中くらいと思われる。機転が利き自主的で有能であるという自己イメージを持ち、社交的で抜け目なく活動したりするが、落ち着きがなく、気が変わりやすく、不満を感じたり、憂鬱になったりすることがある、とされる。

自己顕示欲求が強く、抑制に欠ける点があるため、他人から敵意を抱かれる場合もある、と思われる。

現在抑うつ感情や緊張感は体験していないようであるが、ストレスを受けると、知性化による防衛や強迫的な接近行動が現れるであろう、と予想される。

・MMPI-MINI に見られる対人関係の特徴

対人関係を不快に感じたり、大勢の人が苦手であったりするなど、人との交際を嫌う傾向があるとと思われる。

他人を信用せず、問題を誇張する傾向があったり、不公平なことがあると腹を立てたりして、自分の欠点や敵意を相手に投射することがあるだろう。さらに、競争心が強く、他人に対して批判的、攻撃的、報復的であるため、社会的に孤立する場合もあるだろう。

自分の身体や健康に関して注意を払わず、他人に対して、肉体的な頑強さやスポーツマンらしさ、大胆さなどの伝統的な男性役割を過度に強調する傾向や、強迫的な接し方をする傾向があると思われる。

・ MMPI-MINIに見られる上記以外的人格と行動の特徴

態度や行動は柔軟で、全般的に『ほどほど』、というのがこの被検者の行動の特徴であろう。

・ 被検者の MMPI-MINI 診断印象

現在、この被検者には目だったストレス症状は現れていない。これは、被検者がストレスを受けていないか、あるいは、ストレス耐性が強いのかのため、と考えられる。適応上の重大な問題は見られず、正常である、という印象である。

Ⅲ. 討 論

まず、樹木画と MMPI-MINI との双方の資料の整った被検者についての検討をすることとする。各樹木画について、その全般的解釈と MMPI 自動診断システムによる診断結果との比較と、内容の検討を行なった。

[描画者 a について]

・ 一致点

まず、この描画者は、人や事象との関わり方が安定している点をどちらも指摘している。樹木画の解釈では、「バランス感覚の良さ」あるいは「対人関係はおおむね良好」として捉え、MMPI では、「自分の心を打ち明ける傾向と秘密にしておく傾向のバランスがとれている；外向的と内向的の均衡がとれている；具体的な事柄と理論的な事柄の両方にほどよい関心がある；他人をほどよく尊重し、思いやる傾向がある；態度は柔軟で、感受性が強すぎることはない」「世慣れた人；社会的に順応しようとしている」と解釈されている。

第 2 に、この描画者の日常生活が、円滑に進んでいることを指摘している点をあげることできよう。すなわち、樹木画の解釈では、「落ち着いた日常生活」とか「自分の状況を楽しむ」など、

青年期の樹木画に関する研究（5）

MMPI では、「適応は良好；状況に応じた適切な行動をする；適応上の重大な問題は見られず、基本的には正常であるという印象を与える；」とか「社会的制約を受け入れる」などと述べられており、どちらも描画者の日常が、心理的にはたいした支障ないであろうことを予想している。

第3は、描画者には心理的束縛があまり無いことを指摘している点である。樹木画の解釈では、「自由闊達」とか「心の自由」、「情緒的に安定」などと表現し、MMPI では、「社交的、抜け目がない、楽天的、活動的」「自由でオープンな自己像；目だったストレス症状は現れていない；ストレスを受けていない気楽な状態であるか、あるいは、ストレス耐性の強いことがうかがわれる」「ストレスから自由」としている。

・相違点

描画者の持つ心的エネルギーないし活動エネルギーの強さに関して、樹木画の解釈では、「強い」とし、MMPI では「普通の範囲」としている点が、相違点である。これは、樹木画が、「描画」という方法で内的なものを直接引き出すのに対して、MMPI は、内的なものを言語という媒介を通して推測しようとしているという違いがあるため、と考えられる。

・MMPI に表われないもの

樹木画の解釈のうち、「堂々として勢いがある」、「伸びやかに描かれている」、「こだわりや自己主張」、「乱雑さや細かい配慮に欠ける」、「にぎやか」、「朗らか」など、描画者の心が、誘導されることなく、また限定されることなく自由に表現されているものに関する部分が、MMPI には表われていない。

・樹木画に現れない点

MMPI では、「自己顕示欲求」や、「猜疑心や敵意の強さ」、「競争心」、「活動のレベル」などが、「普通程度」とされているが、樹木画では、表現されている内的なものの程度を、一般的な他者との比較によって特定することはできない。また、MMPI では、「身体化による防衛を行なっているかもしれない」と指摘されているが、樹木画の中に、その指摘をとらえる手がかりとなるような表現を見出すことが困難である。

[描画者 b について]

・一致点

双方とも、描画者の内的なやや危機的と思える状況を捉えている。

樹木画の解釈では、「左右対称の安定した形態にもかかわらず、安定感が感じられない」とし、MMPI では、「精神的に問題を抱えている；神経症か精神病かは特定不能；完全に正常であるとは

言えない」としている点である。

対人関係に関して、樹木画の解釈では、「対外的には自信がない」としているし、MMPIでは、「交際嫌い；対人関係が不快；大勢の人が苦手；人目を惹くことはしない；自分の問題を話題にしたがらない；社会的に孤立することもありうる」として、描画者が対人的に何らかの問題に気付いていることを示唆している。

適応状態に関しては、樹木画の解釈では、「表面的には良く適応している」としており、MMPIでも、「適応は、ほぼ良好であろう；意図的に良い印象を作ろうとする構えが見られる」と、類似した判断が示されている。また、日常生活に関しても、「日常的に、対人的な問題を引き起こすことは少ない」、「ものごとに対する固執は、強くはなさそう」（以上樹木画解釈）、「社会的な統制には適当に従う」、「態度は柔軟」（MMPI 診断）などとして、描画者の日常生活に大きな支障がないことを推測している。

自分に関する認識では、「自分には満足している」（樹木画解釈）とか、「有能感がある」（MMPI 診断）などとし、どちらも、この描画者が自分を肯定的に捉えている、と予測している。さらに、「表面的な適応の良さを、本来の自分の状態であるとしている」（樹木画解釈）あるいは、「洞察力、理解力不足」（MMPI 診断）

などとして、描画者のこの自己認識が誤りであることを指摘している。そして、その認識の誤りが、「自分の内面的な課題に、あまり注意を払わないか、あるいは、意図的に避けている」、「内的な矛盾の存在」（以上樹木画解釈）、あるいは、「粗雑なやり方で抑圧や否認の機制を使う；用心深く、防衛的、抑制的、否認の防衛機制が見られる；洞察力や理解力が不足して、心理的な混乱を認めようとはしない」（MMPI 診断）などに起因すると推測している。

また、描画者の活動性についても、「鈍重」（樹木画解釈）、「エネルギーや活動性のレベルが極端に低い」、「無関心、無気力で、動機付けるのは難しい」（以上 MMPI 診断）など、同様の見方である。

・相違点

樹木画の解釈では、描画者が「好い加減さ」を持つとしているのに対して、MMPI 診断では、「自己統制の程度が極端」とし、「厳格な宗教的・道徳的訓練を受けてきたかもしれない」と推測している。このような見解の相違は、Baumtest がほとんど制限を受けない自発的な表現である樹木画を解釈するのに対して、MMPI が予め決められている質問に対して二者択一で回答を求められるという描画者の自発性が制限される事態で表明されたものを診断するという、この2つの検査法の相違に起因すると考えられよう。

・MMPI に表われない点

表面を取り繕いや、見かけの弱々しさ、頑固さ、理屈っぽさなどの描画者の特徴は、樹木画の形態や運筆、紙面の位置などの分析によって解釈される。このような解釈ができるのは、描画者が、その内面を樹木画として表現しているからである。

・樹木画に現れないもの

欲求不満耐性の低さ、ストレスへの対応のし方、現実の振るまい、社会規範への態度など、具体的な行動レベルを、描画者がどのように言語的に理解しているか、という樹木画の解釈が困難な部分の情報を MMPI が提供している、といえよう。

[描画者 d について]

・一致点

対人関係に関して、樹木画の解釈では、「対人的接触を避ける傾向」や「内面を人に見せまいとしている」とされ、MMPI では、「交際嫌い」「対人関係が不快」「大勢の人が苦手」「他人を信用しない」と診断されており、双方の見方は一致している。

また、日常生活に関して、樹木画の解釈は「人を寄せ付けない雰囲気」として、描画者自ら孤立も辞さない態度であることを示唆し、MMPI 診断が「独立思考が強く」、「習慣に従わ」ず、「拒否的」なであるこの描画者が結果として「社会的に孤立する場合もありうる」と捉えている。描画者の心理的な特徴としては、「神経質で気難しく見える」、「寂しさを抑圧する」（以上樹木画解釈）、「不機嫌」、「批判的」、「攻撃的」、「報復的」、「抑制的」（以上 MMPI 診断）とされる。内面的には、「ものごとに対する態度が自己完結的」（樹木画解釈）で、自分で体験したことを一般化しようとしないため、他人からは、「普通の人より多くの異常な経験あり」（MMPI 診断）と捉えられることになるのであろう。

適応状態に関しては、樹木が退行領域に描かれていることから、「社会生活は困難を伴っている」（樹木画解釈）とされ、MMPI では「適応状態が不良かもしれない」と診断されている。さらには、「ストレスを受けると、知性化による防衛や強迫的な接近行動が現れる」（MMPI 診断）その結果として、退行領域に引き戻ってしまうのかもしれない。

・相違点

活動性について、MMPI 診断では、「エネルギーや活動性のレベルは普通の範囲」ないし「中くらい」と去れているのに対して、樹木画の解釈では、「わきあがるであろうエネルギーが、閉じ込められている」状態のため、「日常的には、非活動的で、行動範囲は狭」くなっているが、潜在的なエネルギーの存在を示唆している。

・MMPI に表われない点

樹木画の解釈では、MMPI の質問項目にはない、したがってその結果に反映されない描画者の特徴である、「小さくひっそりと遠慮がちに見え」ながら、「知的な問題はない」ばかりか、実は「巧みな表現」ができる能力の持ち主であることを、この樹木画から読み取っている。

・樹木画に表われない点

6本の線からなる小さな樹木画によって、描画者が自発的に表現したもの以外の、質問項目に答える形で表現された内容から診断された行動傾向や、興味関心、他者との比較による位置付けなどの情報である。

<結論—青年の樹木画に表されるもの>

(1) 樹木画の解釈と MMPI 診断の一致点の意義

樹木画の解釈と MMPI の診断結果とを比較することにより、それぞれに検査によって明らかにされる描画者の側面には、共通するものがあることがわかった。その側面とは、①対人的側面、②日常的態度、③適応状態、④自身に関する認識、⑤描画者の顕著な心理的特徴などである。この5つの側面は、特定の個人を理解するための必要且つ十分な条件である。それゆえ、Baumtest は、心理治療を目的とする心理臨床に用いることができるだけでなく、広く一般的に、個人を理解するための方法としても有用であることが示されたといえよう。

実際に、Baumtest によって明らかにすることができる、これらの側面について知ることは、一人一人の青年をより深く理解し、関わりを持っていく上で、多くの手がかりを提供するであろう。

例えば、ある青年の対人的な特徴を知ることは、その青年との関係を築く上で、重要な手がかりとなる。適応状態について知ることは、青年が援助を必要としているかどうかの判断がしやすくなり、必要に応じて速やかに援助することができる。青年の日常的態度がどのようなものであるか知っていれば、その青年の行動を誤解することが少ないだろう。青年が自分自身をどのように認識しているかがわかれば、その青年が困難を感じる時、より適切な助言ができる。描画者に何らかの顕著な心理的特徴があることが明らかになった場合は、その行動に注意を払うことができる。

(2) 樹木画の解釈と MMPI 診断の相違点の意義

樹木画の解釈と MMPI の診断結果を比較検討した際に、同一人物に対して、相反する判断がなされる側面のあることがいくつかあった。

第1は、描画者 a のエネルギーや活動性の程度に関して、樹木画の解釈では、「強い」とされ、MMPI では「普通」とされた点である。第2は、描画者 b の態度に関して、樹木画の解釈では、「いいかげんさ」が指摘されたのに対して、MMPI では、「自己統制の程度が極端」として、「厳格な宗

教的・道徳的訓練を受けてきたかもしれない」と推測している点である。第3は、描画者cに関して、樹木画の解釈では、描画者の潜在的エネルギーの存在を示唆しているのに対して、MMPIでは、エネルギーや活動性のレベルは中程度としている点である。

これらの相違点は、上にも述べた通り、まず第1に、BaumtestとMMPIの検査方法の違いに起因する、と考えられる。Baumtestは、言語を媒介としない表現をもとにして個人の内面を明らかにしようとしているのに対して、MMPIは、言語により予め表現されている内容に対して個人が行なう反応をもとにして内面を明らかにしようとする。Baumtestでは、A4判の白紙と、4Bの鉛筆と、「実のなる木を一本」という検査として必要最低限の制限以外は、個人の表現は、制限を受けない。然るに、MMPIでは、予め構成されている質問項目に対して、「ハイ」「イエ」「?」のいずれかを選ぶという自由度しか与えられない。このような検査法の違いが、被検者の表現する内容の違いとなるのは、当然である。

第2に、Baumtestは、「描画」という方法で内的なものを直接引き出すのに対して、MMPIでは、言語という媒介物を通して、内的なものを推測しようとしている。Baumtestでは、解釈者というフィルターを通して、描画者の内的なものを解釈する。MMPIでは、質問紙の作成者の意図というフィルターと、文字言語を読み理解するという被検者の一番目のフィルターと、より本来の自分に近い答を「ハイ」「イエ」「?」の3つの中から選び回答するという被検者の2番目のフィルターと、予め設定されている答の集計法というフィルターの、凡そ4つのフィルターを経た結果から、被検者の内的なものを推測する。これらの手続きの違いという点からも、解釈や診断に相違が生じるのは当然であろう。

という違いがあるため、と考えられる。

(3) MMPIに表われないものの意義

一般的に質問紙は、回答者の回答方法を統制することによって、その質問紙の作成者の意図に沿った回答を得られるように構成される。そのため、回答者は、設定されている質問以外の回答をすることはできないし、回答を拒否することもできない。回答者は常に選択を強制されていることになるのである。(回答を拒否した場合は、その質問紙は、意味を持たなくなる。)それゆえ、質問紙によせられた回答から、回答者の内的なものを推測しようとすることは、きわめて困難であるといわざるを得ない。その回答に含まれる回答者の真の姿と、質問紙作成者の意図とを明確に区別することは、不可能であるから。

それに対して、Baumtestには、描画者の真の姿だけが表される。すなわち、上に述べた通り、検査法としての必要最小限の制限のもとで、描画者は、自由に、自発的に表現することが可能である。そのため、Baumtestで描かれる樹木画に、どのような内的なものが表現されるのかは、描画が終わるまで、描画者にさえわからない。描画者が鉛筆を置いた時に、樹木画は完成するのである。たと

え、その形が整っていなかったとしても、一部が欠けているように見えていたとしても、完成しているのである。そのようにして描かれた樹木画には、描画者の真の姿が投射されている、といえよう。Baumtest に表されているものは、描画者が、描画者の表現のしかたで描き出す、描画者の真の内的なものなのである。

MMPI に明瞭な形では表われないものは、被検者の内的なものであり、その青年の、その時の、ありのままの姿こそ、青年を理解する上で重要なのである。

一方、Baumtest では、樹木画として表現されたものを解釈する際、他者の樹木画との比較によって解釈することはしない。このことは、注意すべき点である。質問紙による個人の理解が、ある人の回答を母集団内に位置づけ、その結果を手がかりにしてなされるのに対して、Baumtest には、他の人との比較が入り込む余地がない。こうして Baumtest では、個人の内的なものが、その人が描いた樹木画のみによって解釈され、理解されるのである。

(4) まとめ

今回の樹木画の解釈と MMPI の診断結果との比較検討により、共通点が明らかとなり、Baumtest は、青年理解のために手がかりを提供する有用な方法であることが確かめられた、といえよう。

参考文献

- (1) Koch K. (林勝造他訳) 1970 日本文化科学者 バウムテスト-樹木画による人格診断法
- (2) 林勝造, 一谷彊 (編著) 1993 バウム・テストの臨床的研究 日本文化科学社
- (3) Koch,R., 林勝造, 国吉政一, 一谷彊 (編著) 1980 バウムテストの事例解釈法 日本文化科学社
- (4) 高橋雅春・高橋依子 1986 樹木画テスト 文教書院
- (5) 津田浩一 1992 日本のバウムテスト 日本文化科学社
- (6) 上里一郎監修 1993 心理アセスメントハンドブック 西村書店
- (7) 日本描画テスト・描画療法学会編 1994 臨床描画研究IX特集バウムテスト 金剛出版
- (8) 山田麻有美 1997 青年期の樹木画についての一考察- Koch, C. のバウムテストを基にして 女子聖学院短期大学創立 30 周年記念論文集
- (9) 山田麻有美 1998a 学生理解の手がかりとしての樹木画についての研究 日本応用心理学会第 65 回大会発表論文集
- (10) 花沢成一ほか 1998 心理検査の理論と実際第 IV 版 駿河台出版社
- (11) 山田麻有美 1999 青年期の樹木画についての研究 聖学院大学論叢
- (12) 山田麻有美 2000a 青年期の樹木画に関する研究(2) 聖学院大学論叢
- (13) 山田麻有美 2000b 青年期の樹木画に関する研究(3) 日本応用心理学会第 67 回大会発表論文集
- (14) 山田麻有美 2000c 青年期の樹木画についての研究(4) 日本教育心理学会 42 回総会発表論文集